

第51回 日本薬剤師会学術大会 ～人として薬剤師として～ (2018.9.23-24 in 金沢)

薬剤師のおためし訪問事業と

同行訪問サポート事業について 口頭発表 報告

医療保険委員会 在宅担当委員 相馬 渉

今回の学術大会には全国から約8400名が参加しました。24分化会、210題の口頭発表、461題のポスター発表を中心に、薬剤師を取り巻く様々な課題について討議が繰り広げられていました。

私は、「薬剤師のおためし訪問事業と同行訪問サポート事業について」(9月23日 第4会場)

という題にて青森県薬剤師会の昨年度の事業について、口頭発表をさせていただきました。

100人ほど入る会場での発表でしたが、満席でした。他の薬剤師会からも在宅医療の取り組みについての口頭発表が多数ありました。

報告事項が多数あり、7分の発表時間を少々延長しましたが、無事発表を終えることができました。

発表後の質問では、広島県の方から

→広島県でも、同行訪問事業を始めようとしているのですが、マッチングに困ったことなどはありましたか?と質問がありました。

→実際マッチングする時に、平日のこの日ではないとダメという一人薬剤師の方がいて、調整に苦労しました。実際に在宅が始まると、この日しかできないなどとは言ってはいられないと伝えました。

発表終了後、神奈川県の港北区薬剤師会 会長さんとお話しさせていただき「おためし訪問後に、在宅の居宅療養管理指導につながり、よかったですね。」とお褒めの言葉をいただきました。神奈川県でも、同じような事業を検討しているとのことでした。

福山大学薬学部の講師の方ともお話し、

→同行訪問するためにどのようなことに気がつけましたか?と質問されました。

→県の在宅委員会が中心になり、アンケートを作成し、研修に必要な要件を確認して、各地区の在宅委員が実施しました。とお答えしました。

学生に在宅の役割を教えることに苦労されているようで、このように在宅未経験薬剤師に研修することはいいことですねと言われました。

発表してみて、在宅への関心の高さを感じました。青森県薬剤師会の活動のアピールは十分できたと思います。木村会長、白滝副会長、伊藤統括担当理事も、応援にきてくれて心強かったです。

今回は、このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

